

ゼミで研究発表会を行いました

教授 鈴木佐喜子



鈴木ゼミでは、学期末に研究発表会を行いました。それぞれが、これまで学んできたことや実習体験を踏まえて関心ある研究テーマを設定し、3年生は半年、4年生は1年半に渡って研究を続け、その成果を発表しました。

ゼミ生たちは、「気になる子どもの保育」「幼児の平和教育」「夜間保育」「異年齢保育」「子どものあそび」「乳幼児と絵本」「乳児の泣き」「仲間関係がうまく築けない子ども」などの

保育や子どもに関わるテーマ、「子育て支援」「保護者支援」「事業所内保育所における母親の就労支援」「学童保育と保護者支援」などの子育て支援、保護者支援に関わるテーマについて、研究に取り組んで来ました。卒業論文に取り組んだ学生もいます。途中、研究テーマを絞りきれない、資料や文献が見つからない、うまく文章に表現できないなど、さまざまな困難にぶつかりながら、全員、完成までたどりつくことができました。

そのなかで、『「気になる」と感じるだけで終わらせてしまうのではなく、生活のなかでたくさん試してみて子どもに合った支援を見つけること』『目の前にいる子どもたちひとり一人を受け止め理解し支援していくことが大切であると思った』、「保護者の心を動かし、すっきりとした気持ちになれば、支援をしても意味がない。保護者の気持ちに寄り添い受け止めること、保護者の立場に立って考えてはじめて見えてくるものであり、その姿勢が保護者の安心感、信頼感につながるのではないかと思う」など、保育や子育て支援についての理解や考察を深めています。ゼミでの発表や相互検討を通じて、自分の意見を発表し他者の意見に耳を傾ける力、多様な視点から物事を捉え考える力を身につけていくことが出来るのではないかと考えます。ゼミを通じて学んだことを3年生は今後の学生生活に、4年生は社会や保育現場に活かして成長して欲しいと願っています。

